



大江山から山々を見渡す児童たち



児童ふれあいサロンの様子



登下校の見守りの様子（岩屋地区）

民生児童委員だより

民生委員・児童委員は身近な相談相手です

民生児童委員協議会では、民生児童委員だよりをとおして各委員の活動をお知らせしています。今回は、子どもの体験・交流事業の報告や、委員の活動への思いを紹介します。

ありがとうの言葉に支えられて

野田川支部 阿路川 正和

与謝野町には67人の民生委員・児童委員（主任児童委員6人含む）が活動しています。主に一人暮らしの高齢者宅への家庭訪問、子どもたちの様子の見守り、必要があれば関係機関につなぐ役目を果たしています。

私が担当する岩屋地区は、500軒余りの小さな集落で少子高齢化と人口減少が進み、学校の統合も行われ空き家が増えています。8年前の夏、地元区長さんが民生委員・児童委員の依頼に來られました。私は、仕事にかまけて地域のことはほとんど分からなかったのですが、退職を機会に何か地域に役立ちたいと思い引き受けました。当時、私の担当地区には、見守り対象の一人暮らしの高齢者は11人おられました。恥ずかしながらほとんど知らないばかりでした。ですからできるだけ家庭訪問の機会を持ち、世間話や子どもさんやお孫さんの話をしながら、お互いの信頼関係を深めました。年数を重ねるとともに顔なじみになり、何でも言い合えるようになり、ありがたいことに、いつしか家庭訪問の終わりに、「ありがとうごさいました」と言われるようになりま

した。私にとってこれ以上の報酬はないと思います。また、人生の先輩である高齢者の皆さんの生き方から学ぶことも多く、私が高齢者の皆さんを支えているようで、実は私が高齢者の皆さんに支えられているのです。

6年前に地元の小学校が統合され、岩屋地区の子どもたちは、市場地区の子どもたちと学ぶことになり、私は毎朝子どもたちと一緒に学校まで歩いて行きます。一緒に歩きながら地域の方々とあいさつを交わし、登校する中学生にも声をかけながら学校へ行きま

す。毎朝校長先生をはじめ先生方から「いつもありがとうございます」と声をかけていただき、これが学校との良好な関係づくりに役立っているのだと思います。ありがたいことに、岩屋の中で子どもたちの登下校を見守っていただく方も増えてきました。

地域や学校の皆さんの「ありがとう」の声に支えられながら、民生委員・児童委員を続けることができました。私の活動は、派手で目立つようなものではなく、日ごろ自分ができることを継続してきたものです。「継続は力なり」と言いますが、身体が続く限り、人と人、人と地域、人と制度や機関をつなぐ活動が続けられ、支え支えられての関係が築けたら私自身も幸せです。

例えば、子どもたちがお年寄りたちの手助けをする機会があったとしても、お年寄りから「ありがとう」とお礼を言われたら、人を助けることで得られる充実感と役に立ったことで自分たちの価値を知ることになります。また、お年寄りから生活の知恵

困甚や将棋などを教わる機会があれば、相手の知識や才能を尊敬する気持ちが芽生え、他人を大切に思う心が育ちます。さらに、ある小学校では、かつては暴力が絶えず荒れた学校として知られていたようですが、転勤してきた先生が「命の教育」として、生き物の命の大切さを教え、同級生同士でお互いを誉めあうという授業を続けたところ、相手の長所を見つけようとする習慣が身につく、表現力や思考力が向上したことで学校全体の学力も大幅に上昇したそうです。何より、学校が明るくなったのが一番の成果だったようです。

子どもたちを取り巻く環境を考えると、こんなことも気になります。最近

コロナ禍でできたこと

（令和3年8月児童ふれあいサロン）

加悦支部 東垣 恵子

加悦支部では、4年前から加悦地域公民館事業である「夏休み体験教室」と協働で、児童ふれあいサロン事業を行ってきましたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の拡大によりまったく活動できませんでした。今年、コロナ禍でもできる方法はないか探りながら児童ふれあいサロン「加悦双峰公園であそぼう」の計画を進めてきました。しかし、例年とは違い3密に配慮した内容を考えることが必要でした。そこで、参加児童を2つのグループに分け（山登りとゲームチーム）、1時間程度で交代する計画にしました。山登りは、自然公園指導員の青木順一さんに大江山の魅力、植生、鬼伝説等の話を聞いていただきながら赤石ヶ岳入り口の尾根まで登りました。加悦の町並みや福知山市を見下ろしながら子どもたちが加悦小学校の校歌を歌ってくれ、山々に響きわたる歌声に感激し上りの辛さも忘れて尾根を後にしました。また、ゲームでは、チームごとに力を合わせて取り組めるように3種類考えました。中でも、山の公園ならではの坂を利用した大型サイコ

は、完成品が簡単に手に入るため、大人との共同作業が減り、ものを作る楽しさが味わえないだけでなく、もの作りの苦労や大変さを学ぶ機会も減りました。おもちゃや遊び道具を家族と一緒に作ったり、さまざまな生活体験をすることにより、ものを大切にする過程がわかり、ものを大切にすることを大切にします。また、伝統的なものづくりや行事に触れることにより文化や伝統の継承にもつながります。さらに、自分たちの住む町に植樹をしたり、ごみ拾いに参加したりすること、町の美化に役立つだけでなく、自分たちが植えた木を見守りながら、町とのつながりが強まり、郷土愛につながっていく効果があると思います。子どもたちの将来を考えると、異なった世代の人たちが一緒に活動し、互いに支えあい、尊重しあい、絆を深めることが大切だと考えます。

KEYWORD 民生委員・児童委員

民生委員は、厚生労働大臣から委嘱され、常に住民の立場に立って相談に応じ、必要な援助を行い、社会福祉の増進に努める方々であり、「児童委員」を兼ねています。児童委員は、地域の子どもたちが元気に安心して暮らせるように、子どもたちを見守り、子育ての不安や妊娠中の心配ことなどの相談・支援等を行います。